

令和3年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和3年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和4年3月8日 午前10時から午前11時40分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室
4	委員出席者	笹本委員、百瀬委員、保科委員、細野委員、伊藤委員、須之部委員、古川委員
5	事務局出席者	山下文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館 原館長、豊科近代美術館 荒深館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館 中田館長、穂高陶芸会館 小倉館長、高橋節郎記念美術館宮澤館長、貞享義民記念館 中村館長、臼井吉見文学館 平沢館長、博物館係長兼新市立博物館準備室 逸見係長、幅主査、松田氏 倉石氏、文化振興担当 三澤係長、塩原主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人
8	会議概要作成年月日	令和4年3月20日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会 (文化課長)

2 あいさつ

3 報告・協議

(1) 令和4年度事業計画について

- 委 員 豊科郷土博物館は、子ども向けの取り組みとして平和学習を計画されている。具体的に、博物館と平和学習がどう結びつくかを教えていただきたい。
- 豊科郷土博物館 展示パネルを作り、学校3校で説明を行っている。1校については職員が学校で解説を行った。4年度の平和教育としては、企画展で戦時下の安曇野について紹介する。
- 会 長 現在のウクライナの情勢もあり、子どもたちに向けて平和を伝えていきたいという思いが私どもにもある。
- 委 員 どんな戦跡があり、被害があったのかを伝えるのが重要。
- 会 長 このようなことは、しっかり進めていただきたい。安曇野を歩くとこれまで気づかなかったようなものもたくさん発見できる。
- 委 員 安曇野市平和都市宣言から10年経った。友の会の戦時生活部で、戦時中どのようなことが行われていたか調査し、8月頭から展示を計画している。そこで調べたことを子どもたちと現地を訪れ伝えるという活動をしたい。
- 会 長 平和都市宣言10年ということに非常に感動を憶える。
- 委 員 私も博物館の平和学習に関わった。穂高北小学校の社会科の時間に紙芝居の読み聞かせに参加した。かつての集団疎開の話などの生き証人が減っている。経験者の話を聞くことによるリアリティの大事さを考える。興味のきっかけとなるため、こういったテーマで、どう伝えようかという工夫次第で、興味のきっかけが広がっていく。ニーズを持ったところに接点を持ち、大勢の人

		が共通のテーマで理解することが大切だろう。
会 長		博物館の職員は、努力した上で計画を立てて行っている。学芸員の人数がどれだけいるかも考え、意見を述べていただきたい。
委 員		実物を見せる、特に屋外、環境を含めての実物について述べたい。一つは、縄文時代に興味があるが、明科北認定こども園で縄文の生活体験を、年間をとおして行っている。それに関連して、龍門淵公園の一角に竪穴住居の敷石の遺跡があると聞いた。これを実際に見る機会が得られないか。もう一つは、烏川溪谷緑地で堰の複雑な川筋を見つけるということをしている。実物を見せることに魅力を感じる。あづみの公園としてもフィールドで情報交換できたらありがたい。
豊科郷土博物館		資料館で考古学資料を展示している。龍門淵公園の件は、屋外のを博物館で展示することは物理的に難しい。
委 員		コロナ禍ではあったが、学芸員のギャラリートークや出前講座が充実している。これらは是非続けていただきたい。SNSの写真投稿が「バズる」こともある。是非活用を。友の会が各館にそれぞれあるが、会員は文化芸術に興味のある人が多いので友の会どうしが交流してはどうか。日展は10万人都市で初めて開催される。こちらにも期待している。
会 長		Facebookは私もできるだけやっついこうとしているが、意外と手間がかかる。でも発信していくことが大事である。日展での連携のように横につながっていくのが大事。友の会も横につながっていただけるとありがたい。安曇野市全体が盛り上がっていただけると思う。
委 員		館どうしのつながりとしては、学校ミュージアムがとても良かった。是非回数を増やし、できれば毎年やってほしい。学校から仕掛けるという方法もあるが、来ていただくことで知らなかった美術館・博物館が知れる。学芸員や館長からお話を伺うことで、作家本人からお話を聞けるような感じがある。きっかけがあれば、中学生にも理解できる。市内各ブロックで1回ずつやってほしい。
会 長		学校ミュージアムの活動では、学芸員の皆さんが実によく説明してくれている。安曇野市だけではなくて、東御市や芸術家も参加してくれている。日本中に誇れる安曇野の活動といえる。学校ミュージアムは、児童生徒が在学中に必ず一度は経験できるようにしている。高橋節郎の作品を持ち込んだり、高田博厚のブロンズ彫刻にふれさせたりしている。本物を見ることがいかに大事か。安曇野市の子どもたちのために、もっとやってほしいと言っただけなのは勇気づけられる。来年は委員の皆さんにも顔を出していただいて、もっと良くなるようご意見いただきたい。
委 員		先週、関係している館を訪問し、それぞれ厳しい状況であることを感じた。季節が冬であることのほかにも、コロナが原因として挙げられる。しかし、庭、トイレの状況を見て職員の皆さんの日常業務に背筋がピンとする思いであった。各館共通しているのは、館どうしの交流と、子どもたちとの関わりが大事であるということ。これから博物館に対して少しでも支援していただくと考えている。
会 長		博物館はお客さんを迎えるところであるので、庭やトイレを委員に褒めていただいたことは、大変励みになる。全体として建物は古くなり、老朽化でやるべきことが増えている。いかに市民を巻き込んで、精一杯やっていくか。コロナ禍だからこそ、できることを準備していきたい。

・欠席委員からの事前意見

委員 郷土博物館の事業指針に研究活動を明記されていることはとても大切に思う。近代美術館の「土門拳」展、非常に楽しみだ。関係者にも強く紹介したい。現代美術に関する取り組みが例年より少なく感じるが、再来年度に期待したい。高橋節郎記念美術館のエピソード収集はとても大切な取り組みである。インタビューの選択によっては地域史的な価値も大きくなるので、図録にとどまらず、記録・アーカイブ化・公開されると良い。

新市立博物館について、博物館とは地域アイデンティティの形成拠点であり、不要不急論以前のインフラであるという認識が、行政トップおよび議会でどれほど分かち合われているのか不安。近年の国を挙げての文化観光路線のなかで、事の本質が見失われがち。ぜひ安曇野にはここで踏みとどまって、新博物館実現を目指していただきたい。「～博物館の意義を多視点的に語り合うシンポジウム」など、企画されてはどうか。啓発・普及活動も重要である。

(2) 新市立博物館構想について

事務局 運営方針としては、令和4年度の組織改変で担当に統合されることが大きな変更点である。計画の敷地 4,000 m²がまだ不明確である。利用できる施設がまだ見つかっていない。改修計画も立てて行かなければならない。博物館構想に軸足を置きながら、経年劣化も考え、耐震診断から始めて具体的に検討する。今後ご意見いただきたい。

委員 一番は、既存の美術館・博物館をどうするかと、新市立博物館構想については分けて考えたい。今ある博物館に手を加え支援をすることを踏まえて、決定すべき。例えば、陶芸会館は体験施設として県内では数少ない施設であるが、焼物を展示している部分の半分を具体的に安曇野で使った焼物を展示するなど、展示替えをしたらどうか。ずっと同じ展示内容ではなく、少し変えて行ったほうが良いかと思う。

武蔵野市の中学生が、ビレッジ周辺を歩いて、調査している。他の市はできていて、なぜ自分達のところではできないのか。遊水池を回るというコースに、残念ながら田淵館が入っていなかった。このようなことがないように、ちくに基金等で田淵館と他の館が連携して、教育委員会としてもはたらきかけができないか。

会長 既存の展示のあり方についても検討の余地がある。現場で歩く教育は、安曇野市の学校教育全体とも連動してくる。

事務局 これまでも行っているあづみの学校ミュージアムは、新しい取り組みとして少し規模を縮小するかたちで校長会をとおして、回数を増やせるよう調整している。

会長 教育のみの問題ではない。博物館構想は、松本、塩尻が今進めているのを、慌てずにじっくり見た上で、どこが良くてどこが悪いのか、あるべき姿を考えてからやるべきではないか。

今回企画された、あづみのミュージアムカードで、周遊して回ることでじっくり考える機会をもらっているのではないだろうか。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。